令和元年度　みやき町立中原中学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
ふるさと中原を担う生徒の育成 ～自律と共同を通して～	①　道徳教育の充実 ②　授業改善の継続 ③　開発的生徒指導の推進 ④　組織力の強化 ⑤　特別支援教育の推進

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　道徳の時間を確実に実施するとともに、学校行事等の体験と関連させ、豊かな心を育成する。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	思いやりのある生徒の育成	・アンケート調査で「いじめ・差別・暴力のない学校」の回答が80%以上になるようにする。 ・居心地のよい学級集団づくりを行う。	・年度初めに全クラスでいじめに関する道徳・学活の授業に取り組む。 ・人権週間や「いのち・生き方を考える日」では、生徒主体の取組を増やし、人権意識を高める。 ・QUの結果をもとに個別の支援を行い、学級満足群のポイントを上げる。	A	・様々な手立てを取り「いじめのない学校」づくりに努め、生徒アンケートの肯定的な意見は、84.7%であった。	・今後も引き続き、生活アンケートや教育相談、生徒観察を通して、いじめや差別、暴力の早期発見、早期対応に取り組む。
教育活動	○道徳教育の充実	指導方法及び評価の検討	・「特別の教科　道徳」の授業実践を行う。 ・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握した評価を行う。	・「特別の教科　道徳」の授業実践を各担任を中心に、学年全体で行う。 ・道徳教育担当を中心に評価の検討を行う。	A	・学級担任を中心に副担任も道徳の授業実践を行った。 ・県教委主催の研修会の内容をもとに検討を行い、生徒の学習の状況や成長の様子を評価することができた。	・来年度も授業実践を積み重ねるとともに、指導方法を共有する。 ・評価についても、今年度のものを基にさらに分かりやすいものにする。

②　学習意欲を高める指導方法や活用力向上の研究を通して、確かな学力を育てる。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	指導方法の改善 家庭学習の習慣化の促進	・3年生のSAGAテストや12月の県学習状況調査において、県平均を上回る。 ・思考力・判断力・表現力を発揮する授業を実践する。	・NRT検査、全国学力状況調査、県学習状況調査の結果を分析し、指導に生かす。 ・校内研究会での授業実践を、自らの日々の授業に生かす。 ・思考力等を育成するために話し合い活動を取り入れた授業を実践する。 ・生徒が取り組みやすいように、各教科で、宿題の内容や出し方を工夫する。	A	・3年生のSAGAテストは、県平均を14.5ポイント上回った。また、県学習状況調査において、1年生は県平均を2.3ポイント下回り、2年生は1.2ポイント上回った。 ・教員アンケートで93.8%が思考力等を育成するために話し合い活動を取り入れた授業実践を行ったと回答した。	・思考力等を育成するための活動について、実践を通した研究を行う。
学校運営	○教職員の資質向上	校内研究会と職員研修の充実	・全職員が年1回、校内研修のテーマに沿った研究授業を行う。 ・講師を招聘した研修会を年1回実施する。 ・県教育センター研修講座を全職員受講する。	・年度当初の校内研究会で実施時期を決定する。 ・長期休業に講師を招聘し、服務等の研修会を実施する。 ・年度当初に県教育センターの受講希望講座調査を行う。	A	・全職員が1回以上研究授業を行った。 ・2回の公開授業の際に東部教育事務所、教育センターの指導主事を招き、指導助言を受けた。 ・93.8%の教員が県教育センターの研修を受講した。	・全職員の研究授業を継続するとともに、指導案検討を通して、若手教員の指導力向上を図る。

③　開発的生徒指導を推進し、生徒のやる気を引き出す。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	生徒指導・教育相談体制の充実	・学校教育目標の「自律」「共同」の更なる高みをめざす。 ・教育活動の中に、開発的生徒指導の手法を取り入れる。 ・生徒の課題解決・自己実現に向け、早期に教育相談を行う。 ・生徒の情報交換を密にするため、組織力を強化する	・節目節目の黄金の1週間や、「役割・出番」→「承認」→「成長」というサイクルを教育活動全体で実践する。 ・年2回の教育相談を実施し、不適応や不安を抱えた生徒の早期発見に努める。SCやSSWおよび関係機関と連携し、早期に対応する。 ・毎週生徒指導委員会を開催し、SCやSSWにも参加してもらい、生徒の情報交換を密に行うことにより早期解決を図る。	A	・教員アンケートでは、全ての職員が開発的生徒指導の手法を行ったと回答した。 ・年2回の教育相談を行い、不安を抱えた生徒に助言をすることができた。 ・管理職、生徒指導主事、各学年の生徒指導担当、教育相談担当が毎週情報交換を行い、組織的に不登校等の課題に対応した。	・生徒の自尊感情を向上させるための「開発的生徒指導」を継続する。 ・不登校生徒や特別支援学級の生徒対応については、今後もSSWやSCの助言を基に行う。
教育活動	●いじめ問題への対応	生徒が安心して生活できる学年・学級経営の充実	・アンケート調査で「いじめ・差別・暴力のない学校」の回答が80%以上になるようにする。	・学年経営・学級経営を通して、いじめを発生させない雰囲気づくりに努める。 ・道徳の授業を通し、道徳性を育成する。 ・学校行事や生徒会活動で生徒がより主体的に取り組む場を用意し、「役割・出番」→「承認」→「成長」というサイクルを実践することにより、生徒に達成感・成就感をもたせる。	A	・生徒アンケートの肯定的な意見は、84.7%であった。しかし、まだ1割以上の生徒が否定的な回答であった。	・アンケート結果から、1割近くの生徒が不安に思っていることから、毎月の生活アンケートや面談を通して、情報収集を丁寧に行う。

④　教職員の組織力を強化し、活気ある学校を目指す。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特別支援教育の充実	教員の専門性と意識の向上	・支援が必要な生徒に対する対応のしかたについての職員研修を年2回実施する。	・巡回相談を通して、支援が必要な生徒に対する対応を学ぶ。 ・特別支援計画についての研修会や著作等を通して、支援が必要な生徒に対する対応のしかたを学ぶ。	A	・生徒指導協議会で支援が必要な生徒の情報共有を行い、対応方法の共通理解につながる研修を行った。	・次年度も継続して、生徒の状況や対応方法などの情報交換を行うことで共通理解を図る。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策
教育活動	●健康・体つくり	望ましい生活習慣の育成	・「早寝・早起き・朝ごはん」を呼びかけ、80%以上の達成率をめざす。 ・給食後の歯みがきの励行を呼びかけ、80%以上の達成率をめざす。	・生活習慣調査を行い、結果をまとめ個々の改善点を見直す。また、「保健便り」等で食事、休養、特に睡眠の大切さを生徒・保護者に伝える。 ・11月に生徒会主催の歯磨きチェックを行い、食後の歯磨きを呼びかける。	B	・生徒アンケート「早寝・早起き・朝ごはん」の肯定的な意見は、79.7%であった。しかし、3割程度の生徒が否定的な回答である。 ・給食後の歯みがきは91.5%の生徒が肯定的に回答した。	・3割程度の生徒が早寝・早起き・朝ごはんができていないため、指導を行うとともに、保護者へ協力を継続して依頼する。
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると回答する生徒を70%以上にする。 ・中原中学校や地域が好きだと回答する生徒を70%以上にする。	・学級活動や総合的な学習の時間等で、生徒に夢や目標について自ら考えさせる場面を設定する。 ・全校朝会や学校便りで中原中学校や地域の歴史等を生徒に伝える。	A	・生徒アンケートでは、84.8%の生徒が夢や目標に向けて努力していると回答している。 ・中原中学校や地域が好きだと回答する生徒は、88.7%であった。	・生徒に夢や目標を確認させる場面を定期的に設定する。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

・保護者、生徒アンケートでは、すべての項目について肯定的な回答が過半数であり、おおむね好意的な評価を得ている。
・校内研修を中心に、「グループ活動を軸とした問題解決的な学習活動」を仕組んだ授業実践を積み重ねるなど、重点目標達成に向けた教育実践を行うことができた。
・次年度も継続して授業改善や開発的生徒指導、道徳教育の充実に全職員で取り組みたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目